

習志野市におけるコミュニティ施設間の「他機能利用」の実態とその要因

日大生産工(院) ○菊地 眞美

日大生産工 広田 直行

1 はじめに

1.1 研究の背景と目的

近年,コミュニティ施設利用者の活動は多様化し,単体の施設でその要求を満たすことは難しい。そこで利用者は複数の施設を利用し,これを満たしている。

本研究では施設のネットワーク化に焦点を当て,利用者が複数の施設を利用した際に十分な活動を行うための要件を抽出する。所管省庁の異なる施設であっても,類似した機能を持つ場合,施設情報を利用者へ発信することで,利用を促進することができると考える。

本稿ではネットワーク化を行うにあたり,機能連携の観点から「他機能利用」の実態とその要因を明らかにすることを目的とする。

ここでいう機能連携とは,利用者が複数の施設で複数の機能を利用している状態を指す。また他機能利用とは機能連携のうち,重複した機能を持たない施設を利用している場合を指す。

1.2 研究の対象と方法

本研究では習志野市の公民館全7事例およびコミュニティセンター全2事例,生涯学習地区センター全1事例を対象とし,調査を行う。以下表1に対象事例の概要を示す。

対象である全10事例において,施設の利用者に対しアンケートを実施する。アンケートの項目を表2に示す。利用者にはアンケート実施施設および他に利用している施設についてNo.3,No.4の質問を行う。利用者の自宅住所については,町丁目を把握できるものを有効とする。

表 1 調査対象事例の概要

事例No.	施設名	延床面積(m ²)	建設年
1	菊田公民館	1,491.5	昭和46年
2	袖ヶ浦公民館	1,210.7	昭和56年
3	大久保公民館	1,131.9	昭和48年
4	新習志野公民館	1,063.2	平成4年
5	谷津公民館	1,022.8	昭和57年
6	実花公民館	581.9	昭和54年
7	屋敷公民館	349.5	昭和52年
8	東習志野コミュニティセンター	1,057.0	昭和57年
9	谷津コミュニティセンター	888.0	平成7年
10	生涯学習地区センター ゆうゆう館	481.2	昭和43年

表 2 アンケート項目

No.	アンケート内容
1	利用者属性(性別、年代)
2	利用者の自宅住所
3	利用室名称
4	施設の選択理由
5	施設の利用頻度

2 調査結果

2.1 回答結果

アンケート回答数を表3に示す。

表 3 アンケート回答数

対象施設	回答数(人)	有効回答数(人)
公民館全9事例	260	193
コミュニティセンター全2事例	73	57
生涯学習地区センター全1事例	41	27
合計	374	277

Actual Situation and Factors of "Other Functions Use"
Between Community Facilities in Narashino
Mami KIKUCHI, Naoyuki HIROTA

2.2 利用者の自宅から施設までの距離

年代別にみる自宅から施設までの距離を図1に示す。アンケート結果から、回答者のうち70代、次いで60代の利用者が最も多いことが明らかになっている。

図1からわかるように、70代の利用者は全体に分布しており、距離に関係なく施設を選択していることがわかる。車や電車などの長距離移動が可能な移動方法が積極的に使われていると考えられる。そのため、駐車場や近隣の駅との関係を把握する必要がある。

一方30代の利用者は0mから3500mの間に集中して分布しており、近距離の施設を選択していることがわかる。これは、活動の多くが子ども同伴の場合が多く、移動距離が制限されてしまうことがその要因だと考えられる。

2.3 利用実態

図2に一ヵ月当たりの施設の利用頻度を示す。公民館は一ヵ月に3回、コミュニティセンター(以下C.C.とする)・生涯学習地区センター(以下地区センターとする)は一ヵ月に2回という回答が最も多かった。これは、施設の制度として、1団体につき公民館は一ヵ月に3回、C.C.は一ヵ月に2回と活動回数が制限されているためだと考えられる。また、それ以上の回答がみられることから、利用者はひとつの施設で複数の団体に所属し、複数の活動を行っていることがわかる。また、アンケートの回答から、図3に複数の施設を利用している割合を示す。全ての施設で、「複数の施設を利用している」という回答がみられる。

図2,図3より複数の施設を利用する要因として、活動回数の制限があげられる。

2.4 室分類

コミュニティ施設に設置されているサークル活動に利用される室を、室名称と設えから分類する。室分類と設置率の概要を表4に示す。全ての施設に「会議室」「調理室」「和室」が設置されている。これより公民館,C.C.,地区センターの室構成は類似していることがわかる。

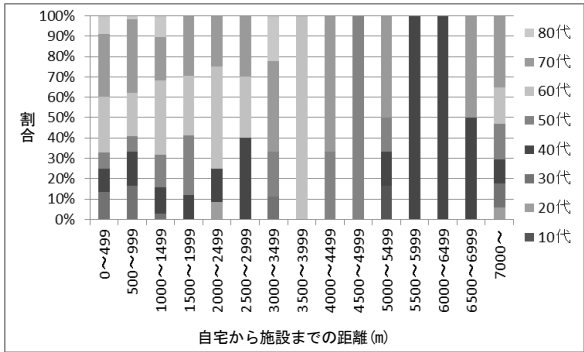


図1 年代別にみる自宅から施設までの距離

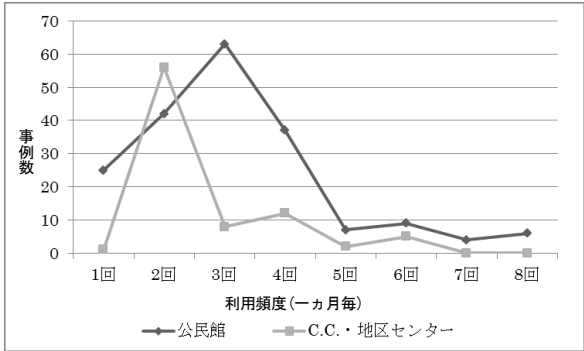


図2 一ヵ月当たりの施設の利用頻度

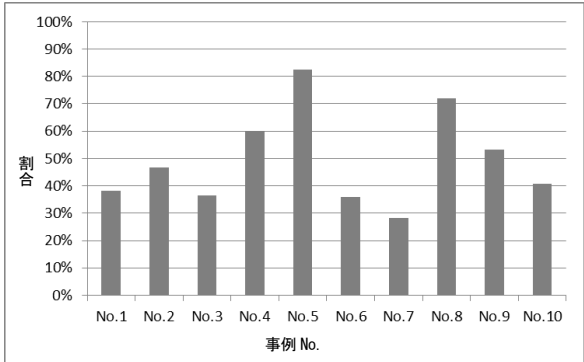


図3 複数の施設を利用している割合

表4 室分類と設置率

室分類	設置率		室名称
	公民館	C.C.・地区センター	
集会室	86%	100%	集会室、講義室、多目的室、ふれあいルーム、講堂
会議室	100%	100%	集会室、会議室、講義室、研修室、研修実習室、サークル室、実習室
調理室	100%	100%	調理室、調理実習室、料理教室
和室	100%	100%	和室、和室研修室、憩いの室、つどいのへや
幼児室	85%	0%	幼児室、こどものへや
工作室	14%	33%	工作室
展示室	14%	0%	展示室

3 他機能利用の実態

3.1 他機能利用の割合

図4に機能連携の割合を示す。
機能連携のうち、他機能利用の割合は平均16%を示していることがわかる。他機能利用は事例No.10の施設で最も多くみられる。また、事例No.2および事例No.3、事例No.9では、回答がみられないことがわかる。

他機能利用時の施設別利用者度数を図5に示す。市内のコミュニティ施設は0~2事例と、どの施設も低い値を示している。これはどの施設も室構成に大きな差がなく、同一機能利用の割合が高いためと考えられる。一方その他の割合が高い理由として、音楽室や体育館などの専門分化されている機能がコミュニティ施設以外の施設に散在しているためだと考えられる。

3.2 他機能利用と活動範囲の関係

図6に利用者の活動範囲と機能連携の割合を示す。ここでいう活動範囲とは、自宅からアンケート実施先の施設までの距離と自宅から他に利用する施設までの距離の平均を指す。

同一機能利用の際には500mから3000mの施設を選択する割合が高いことがわかる。これは近隣の施設を選択していると考えられ、自宅から施設までの距離が関係しているといえる。他機能利用の際には平均6079.4mとなり、同一機能利用より約2.3倍と高い割合を示している。他機能利用のように専門分化された機能を持つ施設を選択する場合、自宅と施設の近接性は重要視されないことがわかる。

3.3 他機能利用時の機能分類

表5に他機能利用時の機能分類を示す。他機能利用を行う際の機能は3つに分類することがきる。「サークルで利用されない機能」には、ロビーや図書館(室)のように、自由に入りができ、滞在が可能な諸室があげられる。「コミュニティ施設にない機能」には、音楽室やスタジオ、体育館等の専門分化された機能

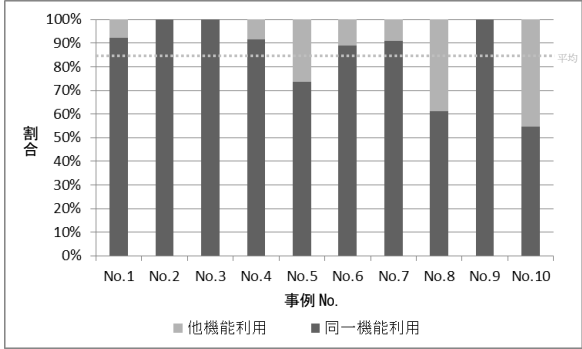


図4 機能連携の割合

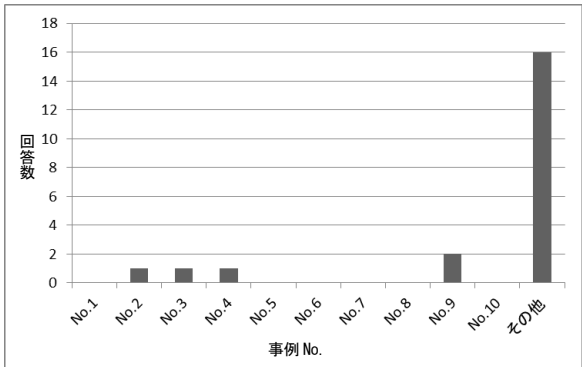


図5 他機能利用時の施設別利用者度数

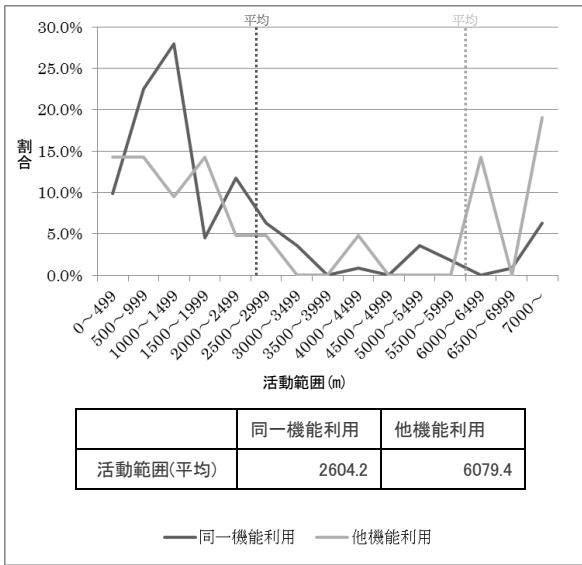


図6 活動範囲と機能連携の割合

表5 他機能利用時の機能分類

	室名称	回答数
サークルで利用されない機能	ロビー	1
	図書館(室)	4
コミュニティ施設にない機能	音楽室	3
	スタジオ	5
	体育館	7
コミュニティ施設にある機能	工作室	1

があげられる。それらにはコミュニティ施設と隣接または併設している施設もあり,相互関係を把握する必要がある。「コミュニティ施設にある機能」には工作室のように設置率の低い諸室があげられる。このように諸室の有無が他機能利用に関係するため,さらに室構成の分析を深め,調査する必要がある。また今回の研究の対象となっていない施設との連携も考慮することで,さらに他機能利用の促進を図ることができると思う。

4 まとめ

1) 本稿より他機能利用の実態について得られた知見は以下のとおりである

- ・70代の利用者は遠距離施設でも車や電車を積極的に活用し,距離に関係なく施設を選択していると考えられる。
- ・30代の利用者は自宅から近距離の施設を選択していることがわかる。これは,活動の多くが子ども同伴の場合が多く,移動距離が制限されてしまうことがその要因だと考えられる。
- ・専門分化されている機能はコミュニティ施設以外の施設に散在している。
- ・他機能利用時の活動範囲は平均6079.4mとなり,同一機能利用の約2.3倍を示している。

2) 他機能利用の要因として以下のように考察する。

- ・習志野市では1団体の活動回数が制限されているため,利用頻度は公民館では3回,C.C.・地区センターでは2回が最も多い割合を示している。またそれ以上の回答がみられることから,利用者はひとつの施設で複数の団体に所属し,複数の活動を行っていることが明らかである。
- ・コミュニティ施設では全ての施設で室構成に大きな差がなく,他機能利用を抑制していると考えられる。
- ・音楽室や体育館などの専門分化された機能を持つ施設で他機能利用が行われる傾向にある。
- ・他機能利用では,自宅と施設の近接性は重要視されないと考えられる。

・他機能利用を行う際の機能を以下の3つに分類することができる。

1. 自由に出入りができ滞在できる,サークルで利用されない機能
2. 音楽室や体育館などのコミュニティ施設にない機能
3. コミュニティ施設にあるが,工作室のように設置率の低い機能

今後の課題として,コミュニティ施設における駐車場や近隣の駅との関係を把握する必要がある。また本研究の対象である10事例に限らず,他の施設との関係や利用状況についても明らかにする必要がある。

5 参考文献

- ・片桐隆博：千葉市コミュニティ施設における学習行為と空間の対応 第39回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 285-288, 2006年
- ・高橋 潤：千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の要件 日本大学大学院生産工学研究科 修士論文 pp. 13-19
- ・平成26年度 習志野市公民館要覧
- ・「公民館コミュニティ施設ハンドブック」 日本公民館学会編:エイデル研究所
- ・習志野市：習志野市公共施設再生計画 - データ編 - 習志野市財政部資産管理室資産管理課 平成25年3月
- ・広田直行 山岸輝樹 阿部紀子 畑真由香 橋本緑郎：習志野市の施設配置及び機能精査分析に関する研究 平成26年2月